令和４年度（2022 年度）　自己評価結果表

令和５年３月 31 日
社会福祉法人ふじみ野会
子どものその Baby 保育園

【本園の保育目標】

わたしたちの願い（保育理念）

豊かな自然	自然の中でのびのびと子どもを育てます
あたたかな人間関係	おとなの愛情と仲間の中で子どもを育てます
ほんものの文化やあそび	豊かな文化やあそびの中で子どもを育てます
地域とともに	園と家庭、地域がいっしょになって子どもを育てます

私たちのめざす子ども像（保育目標）

◎友だちと思いっきりあそび、自分の気持ちを素直に表現でき、人とつながって生きていく子ども
◎何にでも興味・関心を持ち、自分でやってみようとする子ども
◎失敗を恐れないで挑戦し、仲間とともに学び、その経験を生かす子ども
◎あそびの中でからだを動かす楽しさが分かる子ども
◎生活習慣を身につけ、健康な生活ができる子ども

【本年度、重点的に取り組む目標・計画】

昨年度に続き、新型ウイルス感染が収まらないなか、感染対策と感染が起きた時の対応に追われる日々でした。社会の感染状況を見ながら対策を柔軟に対応してきました。

その中で、子ども達が生き生き生活し、成長を妨げないように考えてきました。子ども達が、ともだちとしゃべりまくり、からだを寄せ合いながら、人のぬくもりの中で育つことを大事にしてきました。

【振り返りと自己評価】

１，コロナの中での保育内容について

4 月は、園児と職員に新型コロナウイルス感染が同時期に起こり保育が出来にない状況となりました。そのため乳児 2 クラスを 2 日間又は 3 日間臨時休園とせざるを得ない状況になってしまいました。保護者の方には大変な負担をおかけしましたが、一度休園と登園自粛のお願いしたことで感染を一度抑えることができました。

再度 7 月、8 月に園児の感染が広がりました。11 月、12 月、1 月に感染はありましたが広まることなく治まりました。2 月からは新型コロナウイルス感染は落ち着き、インフルエンザの感染がありました。

社会の状況の中で、濃厚接触者判定については状況をみて園が判断し判断に困った場合は市に相談することとなりました。これにより Baby では、理事長と相談の上濃厚接触者を必要な場合の

みに変更してきました。

感染予防対策は昨年に引き続き、手の届くところやおもちゃなどのアルコール消毒、換気、幼児クラスの給食時のパーテンションの使用、など行なってきました。子ども達の生活はともだちとしゃべりまくり、からだを寄せ合いながら、人のぬくもりの中で育つことを大事にしてきました。パーテンションについては 2 月からなくしたことで、子ども達が楽しみながら落ちついて食事が出来るようにしました。マスクについては日中のマスク希望者と合同保育の時間のみ希望者がまだいます。

令和５年度は異年齢との散歩、リズムなどの活動をひろげ、可能であれば時期を見て苗間保育園との交流を再開できるようにしたいです。また、園近くの老人施設への訪問も行う予定です。4 月からは幼児クラスも送迎時保育室に入ってもらい、支度のみならず、ノッカーの中の製作物や掲示物を見てもらう機会にします。保護者同士、職員ともに顔を合わせて何気ない話や子どもの事を話せるようにしていきたいと思います。。5 月からは、新型コロナウイルスが感染症が感染症法 5 類になることを受け、コロナ前の生活に戻れるように保護者や職員の不安に寄り添い、理解を深められるよう取り組んでいきます。

２，保育内容について

（1）1 歳児のこだわりとどう向き合うか

自我が育ってくるがまだまだ大人の言葉は理解できないこの時期。子どもの“こうしたい”という思いをどう受け止め、思うようにいかないことをくぐりながら、その子が楽しく生き生と成長出来るようにするにはどうしたら良いかを実践を通して学び合いました。この時期は個人差が大きく一人ひとり思いも、思いの表現の仕方も違う。子どもの伝えたい思いがしっかり育ったからこそ現れることなので、一人ひとりの子どもとじっくり向き合い、関わることが大事であることを学びました。子どもはおとなが寄り添おうとしていることをしっかり受け止めてくれて子どもの大人に対して関わりを変えてくれる事もわかりました。

（2）2,3 歳児のいやいや、わかっているけど大人の言うことは聞きたくない子どもたち

どうしたら楽しくスムーズに活動が出来るか考えていた時は、子どものいやいやがエスカレートしていきました。子どものやりたい気持ちを尊重し一緒に楽しんでみると、子どもたちが自分で本当にやりたかったことを実現するする心地よさを覚え、少しずつ友達と一緒に活動することが楽しくなってきました。今の自分では思うようにいかないことも理想の世界では楽しく過ごせる。その体験をもとに成長していく子どもたちの姿を確認し合うことが出来ました。

(3) 一人ひとりの子どもを通して育ちを考える

幼児になり集団生活が主になっていくが集団を作る個々の成長が大事であることに注目してみました。そして、その中で生活習慣の育ちが大きいことを感じました。“何歳だから”と決める付けることなく一人ひとりの育ちに寄り添い丁寧に指導をすることの大切さを学びました。その中で、乳児期と違い子どもの力を信じ、頼りにすることで伸びる力が大きくあることも大切なことであ

ることを学びました。

３，保育内容の周知と保護者との関わり

保護者との関りは行事が昨年より行うことが出来、話が出来るようになったことで理解してもらえることも多くなったように思います。子ども達の様子を写真や手紙、連絡ノートや直接話など、園での様子を伝えてきました。

４，給食と保育

多様な食物アレルギーの対応にあたり、アレルギーの子の給食のお盆を替え、誤食防止にとりくみました。同時に行事の際はみんなが同じものを食べられるよう他の子の食材をアレルギー対応にするなど出来る限り『アレルギーだからその子は仕方ない』ではなく園と保護者と相談しながらどうしたら楽しい体験を保証できるかを考えてきました。

クッキング保育などは感染防止から実践が難しかったです。

幼児期クラスの配膳当番は、感染状況を見ながらマスクを着用するなど感染対策を講じながら少しずつ行ってきました。

５，職員同士の協力・連携

クラス内の話し合い、リーダー会、全体職員会議、など職員が子どもたちの様子を共有し合えるようにしています。子どもへの理解や対応を共通の認識をもって保育できるよう努めています。

６，研修の充実

園外の研修がリモートになり、研修可能な職員が限られてしまいました。今年度ようやく園内でのリモート研修を受けられる環境整備をお行いました。これから職員研修に力を入れていきます。ただし、この間キャリアアップ研修が受けられずにいたため、職員の自主研修よりキャリアアップ研修を優先して取り組んでいきます。

７，健康・安全・衛生への配慮

送迎時間以外は玄関を施錠しています。

9：30 以降登園の出欠確認が出来ないときは保護者に確認しています。

昼寝は子どもの顔が見えるように明るさを調節し、乳児は呼吸チェックとうつぶせ寝を防止しています。

9 時（又は 9 時半）の時点での出席確認を行い、欠席報告のない園児に対しては保護者に連絡をし、所在確認を行っています。

保育中の人数確認は移動の時はもちろん、常に子どもの居場所の把握に努めています。一人で行うだけでなく職員内で声を掛け合うようにしています。

プール活動はプール監視をおき、温度など記録をつけ安全に夏でしかできない子どもの活動を保証していきました。

８，地域との連携と支援

子育て支援は新型コロナウイルス感染が広がり人との関わりが思うようにいかない中、必要度は高まっていると思いますが、園内で行っている支援事業においては感染リスクが高く、人数制限など感染対策を講じての実施となりました。

また、一時保育事業は今年度も実施することができませんでした。

【今後の課題】

１，保育の推進

新型コロナウイルス感染症が 2 類相当から 5 類になることから感染状況を見ながらも出来るだけ活動をひろげていきたいです。

コロナ時代の経験を踏まえさらに豊かな保育実践が出来るよう努めていきます。

２，職員の研修

職員同士の意見交流、共通理解を持つこと、子どもの観方など実践から学び、時には研修し高めていきたいです。また、キャリアアップ研修も進め、スキルアップに努めていきたいです。

３，保護者との関わり

コロナの中、日常保育、行事等不透明なことが多く、直前の決定や変更が相次ぎましたが、苦情もなく協力してもらい、保護者が子どもたちに寄り添ってくれました。

保護者の生き生きと活躍する姿を子どもたちに見せ、保護者と一緒に進めていきたいのですが、保護者の負担感に加え、感染防止のため活動が狭められていました。今後保護者と一緒にできる行事等を検討していきます。

日常的に子どもの姿を出来るだけ伝え、家庭での悩みや様子を共有できるようにしていきたいです。

4，地域との連携と支援

来年度は感染症の 5 類になり、活動をひろげられるようになれば、地域の連携をひろげ、老人保健施設との交流も行っていきたいと考えています。

子育て支援事業も体制が整い次第開始できるようにしていきたいと考えています。

以上